

地域連携事業終了報告

連携団体名	NP0 法人ゆうばりファンタ	実施年度	2016～2023 年度
事業テーマ	「夕張市をフィールドとした課題解決型・実践型学習の展開を通じた主体性・能動性の育成」→「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭の新たな価値創造に係る協働事業」		
参加教員	代表者：西村宣彦		
事業目的	一般教育科目として開講した「北海道学特別講義（地域活性化プロジェクト実習）」の一環で、夕張市で現地研修を行い、全国唯一の財政再生団体として地域再生に取り組む夕張市の現状・課題や魅力を、市長・市議・市民らとの交流を通じて、肌で学ぶとともに、「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」（以下、ゆうばり映画祭）の関係者に事前に授業を実施していただいた上で、5 日間にわたる同映画祭のスタッフとして活動することを通じて、学生が地域づくりや地域活性化を目的とした協働事業に取り組むことの大変さや面白さを経験し、主体的・能動的に行動する力を涵養することを目的とする。		
経過報告	一般教育科目「北海道学特別講義（地域活性化プロジェクト実習）」を設置・開講した背景は、①2013 年度から毎年、「ゆうばり映画祭」の運営を支えるボランティア・スタッフとして、経済学部西村ゼミ生の有志（20 数名）で参加し、学生の学びと成長の場として手応えを感じていたこと、②2015 年秋に夕張市の財政再建 10 年を検証する「夕張市の再生方策を考える検討委員会」が設置され、代表者も委員として参画する中で、「緊縮財政一辺から倒地域再生重視へ」の歴史的転換を成し遂げ、日本を代表する課題先進地域の再生に取り組もうとしていた、同市をフィールドとした教育プログラムを実施・実践することは、北海道の地域に根差した本学ならではの特色ある科目になりうると考えたこと、③大学においても当時、一般教育科目における地域協働型の科目の設置や、PBL（課題解決）型の授業の実施を推進する方針が打ち出され、その方向性と合致するものであったことから、本地域連携事業を授業の一部に組み込む形で、2016 年度から 2 学期開講の 2 単位科目として、実施することとなった。 同講義のシラバス及び地域連携事業との関係については、次の通りである。まず講義のシラバスについては、第 1 回：ガイダンス、第 2 回～第 5 回：夕張市の歴史、財政再建と地域再生の課題、第 6 回～第 9 回：北海道と映画、夕張と映画祭、第 10 回～第 13 回：映画祭と映画広報・地域振興、第 14 回～第 15 回：映画祭本祭に向けた準備、といった流れで実施した。（2016～17 年度は映画論がご専門の人文学部の大石和久先生に第 6 回～第 7 回の授業を実施していただいた。2018 年度は大石先生が在外研修のため、内容を組み替えた。）前半では夕張市という地域や同市が直面する諸課題について学び、後半では映画や映画祭・映画産業について学んだ後、ゆうばり映画祭に実際に参加して、スタッフとしてイベント運営に携わるという流れであったが、地域連携事業としては、前半の締めくくりとして 1 泊 2 日で実施した夕張現地		

研修（映画祭への参加とともに、シラバスの授業 15 回分の枠外）のバスチャーター代及びガイド料、後半の授業を実施していただいた映画祭関係者への講師謝金に充当し、地域と連携・協働した教育実践の内容を充実させることができた。（映画祭へのスタッフ参加に伴う交通費等は先方が負担した。）

ゆうばり映画祭は 2019 年 3 月の開催を最後に、冬開催から夏開催に変更することを決めたため、2019 年度は同講義を非開講とし、2020 年度から 1 学期開講の 2 単位科目として再開した。しかし同年 1 月に新型コロナウイルスへの感染が道内で確認され、同年 2 月に北海道独自の緊急事態宣言が発出されるなど、世界的なパンデミックとなるに至り、同講義も前半はオンライン授業としての実施を余儀なくされ、6 月に予定していた現地研修は延期（一部はオンラインで実施）、後半は一部を対面で実施したが、映画祭自体がオンライン（Hu1u）開催となったため、現地に赴いて映画祭の運営スタッフとして活動することはできなかったが、コロナの波の合間を縫って、夕張現地研修は夏期休暇期間に日帰りで実施した。（なお、それでも消化不良を感じた同年度の履修学生が中心となり、北海道石狩振興局から相談があった新篠津村で新しい冬のイベントを作り上げる協働事業に 2 学期に取り組み、「第 1 回新篠津天灯（ランタン）祭り」の企画・準備・実施に取り組み、成功させた。）

2021 年度もコロナ禍は終息せず、映画祭のオンライン開催が早々に決まったこともあり、講義のゴールをどこに見出すかを模索しながら授業の実施を続けたが、夕張市側から夕張高校の課題解決に資する取り組みの提案を受け、映画祭出品作品の字幕作成や、映画祭のスピンオフ企画としての現地での小規模な映画上映イベントへの協力といった活動に加えて、高校生と大学生の交流会を企画・準備したが、これもコロナの感染拡大により対面実施は中止となったため、夕張現地視察だけを地域連携事業として実施し、その後、履修学生の有志は、大学生活を紹介する動画を制作し、オンラインでの高校生との交流会を実施した。

このように、コロナ禍が続く中でも、「地域の現状を学び、地域課題の解決に資する取り組みは何かを考え、実際に体を動かして実践する中で学ぶ」という講義や事業の趣旨に沿った取り組みを行ってきたが、2022 年以降も映画祭の現地開催が不透明で、またコロナ禍の影響もあり、夕張市内の大型ホテルが相次いで閉鎖となったこともあり、今後現地開催が復活するとしても、映画祭を継続していく上での重要課題は、学生スタッフの参加とは別のところにあると判断し、同講義は 2021 年度をもって一旦締め、2022 年度は開講しないことを決めた。

地域連携事業の継続の是非についても検討したが、コロナ禍等で多くの運営課題を抱えるゆうばり映画祭が、財政再建と地域再生に取り組む同市において、依然として重要な存在であることに鑑み、同映画祭が地域により根差した映画祭として再生する方向を模索するため、映画祭事務局と市民の対話や、高校・高校生と連携した取り組みの可能性を探る活動に取り組んだ。高校に関しては、2021 年度に高校生が地域探究活動の一環で制作した映像作品が、映画祭で公式に上映されたほか、映画祭のオープニングを高校からライブ中継するなど、今後の展開が期待されたが、高校側も

	限られたリソースの中で、2022 年度以降も映画祭と連動した取り組みを継続的にやっていくのは難しい状況が見て取れたため、2023 年度限りで地域連携事業を終了することとした。 最後に参考まで、本事業と連動させた形で実施した「北海道学特別講義（地域活性化プロジェクト実習）」の開講状況等を、以下に記載する。 ・ 2016 年度：2 学期開講、履修 42 名。10 月に夕張現地研修を実施。第 27 回映画祭（2017 年 3 月 2 日～6 日）に西村ゼミ生等 25 名とともに参加。 ・ 2017 年度：2 学期開講、履修 23 名。10 月に夕張現地研修を実施。第 28 回映画祭（2018 年 3 月 15 日～19 日）に西村ゼミ生等 25 名とともに参加。 ・ 2018 年度：2 学期開講、履修 26 名。10 月に夕張現地研修を実施。第 29 回映画祭（2019 年 3 月 7 日～10 日）に西村ゼミ生等 25 名とともに参加。 ・ 2019 年度：非開講。（映画祭が冬開催から夏開催に移行し開催なし。） ・ 2020 年度：1 学期、履修 25 名。第 30 回映画祭（2020 年 9 月 18 日～20 日）はオンライン（Hulu）開催となり、不参加。8 月に夕張現地研修を実施。 ・ 2021 年度：1 学期、履修 32 名。第 31 回映画祭（2021 年 9 月 16 日～20 日）はオンライン（Hulu）開催となり不参加。8 月に夕張現地研修を実施。10 月に夕張高校とのオンライン交流会を実施。 ・ 2022 年度、2023 年度：非開講。
総括	【成果と課題】 地域連携事業を開始した 2016 年度は、夕張市が「緊縮財政一辺倒」の状況から脱却し、地域再生に向けて走り始めた時期であり、全国的に見ても例のない特異な課題先進地域において、課題解決の方策を学び、実際に現地に足を運んで、市長や市議、市職員や市民らと対話をして、自らも汗を流して活動しながら学ぶという講義を、地域連携事業を活用することで実施できたのは、学生教育の観点からも、本学の地域連携の推進という観点からも、大変有意義で大きな成果があったと考える。 地域の視点からも、2016～18 年度においては、映画祭運営を下支えし、映画祭の盛り上げに寄与することで、映画祭の成功に一定の貢献ができたと考えるが、他方で、大人数の学生の受け入れが、映画祭事務局や夕張市民にかえって負担をかけた面があったことは否めず、そうした面の配慮や調整を十分に行き届かせた上で実施することは、今後類似の地域連携事業を実施する際に教訓とすべきと考える。 2019 年度以降は、映画祭の開催時期の見直しや、コロナ禍の発生による打撃、市政の転換などもあり、課題の改善を図りながら事業を継続していくことができなかったのは、代表者の力不足による部分もあり、残念に思われるところもあるが、社会情勢の変化や地域状況の変化に応じて、存廃も含めたあり方を見直していくことが、地域連携事業には強く求められることを鑑みれば、今回一つの事業をサンセット（終了）できたことも前向きに受け止めている。 夕張市は現在も地域再生に向けて、市民をはじめとした様々な方々が、時に様々な壁やハードルに直面しながら、様々な取り組みを行っている。当事業の終了により、

	参加教員の時間的リソースを増やせる分、地域再生という観点からも、学生教育という観点からも、真に有意義な活動を模索する中で、新たな連携・協働の可能性についても、慎重かつ丁寧に探っていきたい。
--	--